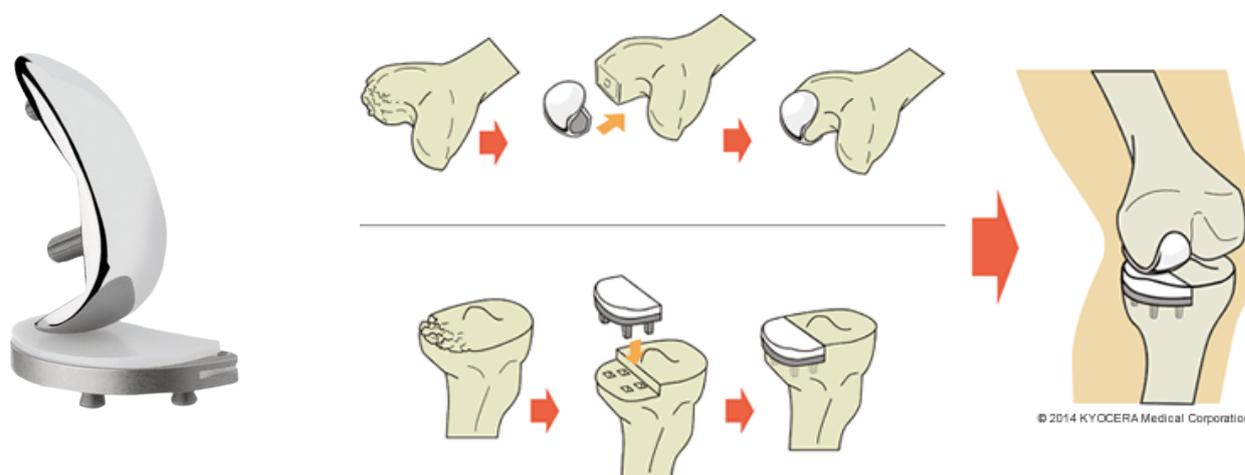


人工膝関節単顆置換術(UKA)とは

人工膝関節単顆置換術(UKA)は、膝関節のすべてを人工物に置き換える人工膝関節全置換術(TKA)と異なり、悪くなっている部分(おもに内側)だけを人工物に置き換える手術です。したがって、膝関節のその他の部分を温存できます。前十字靭帯と後十字靭帯を温存できるので、膝関節のより自然で生理的な動きが期待できます。



ただし、人工関節単顆置換術(UKA)はどんな患者さんにも対応できるわけではありません。

- ① 膝の靭帯がすべて正常である
- ② 関節可動域が良好である
- ③ 摩耗・変形が1か所に限られている
- ④ 肥満がない
- ⑤ O脚やX脚の変形が軽い
- ⑥ 関節リウマチのような炎症性疾患ではない

といった条件があります。

人工関節単顆置換術(UKA)は通常の全置換術と比較して、

- ① 出血量が少ない
- ② 創部の大きさが小さい
- ③ 手術後の腫れや痛みが少ない
- ④ 手術後のリハビリの負担が少ない
- ⑤ 入院期間がより短い(片膝で約2週間、両膝で約3週間)

等のメリットが挙げられます。その一方で手術の特性上、



- ① 長期間の耐久性にやや劣る可能性がある
- ② 手術をしていない側(主に外側)の軟骨のすり減りが将来的に進行するリスクがある
- ③ 術中及び術後の(特に)脛骨骨折のリスクがやや高い

等の心配もあるため、手術の適応については担当医師とよくご相談して頂くことがとても重要です。

術後の日常生活

基本的な日常動作については制限はありません(家事全般、お買い物、車の運転など)。しかし強い衝撃を与える恐れのある動作(高いところから飛び降りる、など)や、相手とぶつかるような激しいスポーツ活動(サッカー、ラグビーなど)はインプラントのゆるみをきたす危険性があるため、勧められません。

起こりうる合併症

合併症とは医療事故や医療ミスではありません。完璧に行われた手術でも予期せぬ合併症が起こることはあります。予防のためにまずは患者さまご自身の病気、たとえば糖尿病があるとか、心臓が悪いとかによって手術後の合併症が起こりやすくなりますので、手術前にすべて検査させていただきます。

人工膝関節手術の合併症としては、創の遷延治癒(キズのなおりが遅いこと)、深部静脈血栓症や肺塞栓症、転倒などによる骨折、術後感染(手術の化膿)など、合わせて約5%程度のかた(100人に5人)におこりますが、いずれも適切に対処させていただきます。

その他、わからないことは何でもおたずね下さい。

川口工業総合病院 整形外科

〒332-0031 埼玉県川口市青木 1-18-15 Tel: 048-252-4873